

(第3種郵便物認可)

いきいき  
びと  
料理生人



俺(わ)家(が)ん親(おや)父(ちち) 毎(まい)日(にち)ギヤ  
ンブルんじょー 俺(わ)家(が)ん  
親(おや)父(ちち)ん言(い)う(う)こつあー嘘(うそ)ん  
じょー(オヤジ ブギ)

日(ひ)田(た)弁(べん)丸(まる)出(だ)し(し)の歌(うた)詞(し)を  
ギター一本(いっぽん)で歌(うた)うブル  
ス歌(うた)手(て)。平(へい)日(にち)は印(いん)刷(さつ)会(かい)  
社(しゃ)で働(はたら)き、週(しゅう)末(まつ)にバーやラ  
イフハウスのステージに  
立(た)つ。麦(むぎ)焼(や)酎(じゆ)をちびちび  
やりながら、古(ふる)里(さと)・日(ひ)  
田(た)でのドジで貧(ひん)しい生活(くわ)を  
明(あ)るく吐(は)き出(だ)すスタイル  
が、東(とう)京(きやう)でもひそかに人  
気(き)を集(あ)めている。

小(こ)学(がく)生(せい)のころは、家(か)  
賃(ちん)なしの公(こう)民(みん)館(かん)に一(いっ)家(か)で住  
んだ。定(てい)職(しやく)を持(も)たない父

日田井のブルース歌手

おうち  
コージ大内さん (43)

＝東京都日野市

は、息子のラジカセを賣屋に入れ、ギャンブルに行く遊び人。差し押さえにも遭った。中学生の時、頼みの綱だった母が他界。生活苦から、高校で

# 極貧生活笑いに変える



日田井ブルースを歌うコージ大内さん

は定時に転校した。  
そんな時、心の支えになつたのが米国テキサスのブルースの大御所ライオン・ホプキンスの味トニ・ホプキンスの味  
わいあるギターだった。21歳で上京すると、4畳半一間に友人らと5人で

住みながら、独学でギターを練習。好きな曲の英詞をカタカナに直して覚えるなど、ブルースの霧の方言指導を受けた末に、マにされたり。同郷の妻に「伝えたいのは、歌に込めた気持ち。ライフの客の中で日田を知っている人はごくわずかだけれど、『気持ち伝わって来たよ』とか言ってもらえるよ」とか言ってもらえるよ、うれしいですね」

父が毒ナバ(キノコ)に当たったり、床屋で寝ていたりうちにパンチパーマにされたり。同郷の妻に「伝えたいのは、歌に込めた気持ち。ライフの客の中で日田を知っている人はごくわずかだけれど、『気持ち伝わって来たよ』とか言ってもらえるよ」とか言ってもらえるよ、うれしいですね」

「極貧生活も、今となっては笑い話。日田井とともに、僕の歌詞に欠かせません。時々、古里に戻ってもいいかなとも思うけど、今は呼ばれれば、どこでも歌に行きたい気分ですね」

地名も多く登場する。「伝えたいのは、歌に込めた気持ち。ライフの客の中で日田を知っている人はごくわずかだけれど、『気持ち伝わって来たよ』とか言ってもらえるよ、うれしいですね」

初の作品「角打ちブルース」は、ジャケット写真に郷土料理「烏ん足」を使い、日田を前面に出した。来年に出す予定の新作も、基本スタンスは一緒だ。

(川崎 弘)